

【普通作物】の【重油流失】対策について

＜通年＞

農業経営支援課

【水稲】

（１）予想される被害状況

- ① 油により稲が生育不良になったり、激しい場合は枯死する。
- ② 油の含まれた水を排水すると、河川や下流ほ場に被害が拡大する。
- ③ 油の流入したほ場の収穫物は油臭がつく。

（２）事前対策

- ① 流入した油は布や紙に吸着させ回収する。特に湛水時の場合はオイルフェンスを利用したり、風の吹き寄せを利用し効率よく回収する。
※界面活性剤は水稲生育中は二重被害となるので、使用しない方がよい。
- ② 水尻は止め、河川や水路に油が流れ出て被害が拡大しないようにする。
- ③ 湛水時に油が流入した場合は、自然落水後に土壌を乾燥させ分解を促す。
- ④ コンバインや乾燥機等を介して油臭が移り、被害が拡大するので収穫は行わない。
やむなく刈る場合は、油付着が地際のみで油臭が移るおそれが無いことを確認した上で、コンバインの刈刃位置を高くして収穫する。

（３）事後対策

- ① 油が表土に残っている場合は、酸化や紫外線での分解促進ため耕起せず、石灰分を散布する。
※分解の目安は、1ヶ月で50%、3ヶ月で75%程度とされているが、条件により異なるので、適宜状況を確認する。
- ② 油がほ場の深い位置まで浸透している場合は、土を入れ替える。

【大豆、ムギ、ソバ】

(1) 予想される被害状況

- ① 油により生育不良になったり、激しい場合は枯死する。
- ② 油の流入したほ場の収穫物は油臭がつく。

(2) 事前対策

- ① 流入した油は布や紙に吸着させ回収する。
- ② 土壌を乾燥させ分解を促す。
- ③ コンバインや乾燥機等を介して油臭が移り、被害が拡大するので収穫は行わない。

やむなく刈る場合は、油付着が地際のみで油臭が移るおそれが無いことを確認した上で、コンバインの刈刃位置を高くして収穫する。

(3) 事後対策

- ① 油が表土に残っている場合は、酸化や紫外線での分解促進ため耕起せず、石灰分を散布する。
※分解の目安は、1ヶ月で50%、3ヶ月で75%程度とされているが、条件により異なるので、適宜状況を確認する。
- ② 油がほ場の深い位置まで浸透している場合は、土を入れ替える。